

ついであらアンサンブル江東

全国大会（第16回）に参加して



第16回全国大会 コンサートin取手

私は全国大会への参加は今回で4回目でした。第13回、15回大会は地元のティアラこうとうが会場で、第14回は近隣の市川市文化会館が会場でしたから今は電車で片道約1時間半の小さな旅でした。コロナ禍で、私達SEの練習は区内の小学校の音楽室が閉鎖され公共施設を月に一回借用して、練習時間を延ばして、断続的に練習を続けてきました。

今回の全国大会への出場は2年ぶりの本番で、暗いムードの中にも目標が出来、練習にも気合いが入りました。本番はいつも通りの演奏を披露することが出来たと思っています。やはり舞台上で会場の視線を浴びながら、指揮の先生の棒に集中してハーモニーを楽しみ合うのは感動です。仲間の12楽団の演奏も楽よい参考になりました。大会を運営しました。代表宮下正代

SE全国大会in取手に出場して



私たち、牛久シニアアンサンブルは、今回2回目。リハーサルの後、本番スタート。各楽団、演奏が次々と終了し、いよいよ私たちの出番となりピーンと張りつめた感覺が全身を覆い、指揮の始まりを見つめていると、空気が一瞬固まり次の瞬間、演奏はスタートし「サンタツワマミー」を弾き終えた時、会場から、はつきりと聞こえてきたのは、ブランボーと、力強い男性の声。

翌日は普段の練習日。大会

に対する先生の評価は、牛久SE結成以来、最高の演奏でした。とのお言葉に団員の笑顔が溢れる練習スタジオ。取手市に住む友人が、会場に足を運んでくれ、「久しぶりにとても楽しめました、最後まで聴かせてもらった」との言葉は、心から伝わってくるものがありませんでした。現在「高齢化社会」が問題の世の中で、このように音楽を楽しんでいた人々が沢山いると認識しました。そして、その中の一人にいられる幸せを、実感した一日でした。

副代表 関口雅子 (Mn)

牛久シニアアンサンブル



本番に入ると全員の気持ちはひとつになって、私自身も練習の時よりもうまく演奏ができたよう感じました。個人演奏では得られないアンサンブルの素晴らしさとはこういうものかと実感した次第です。また次回に向けて練習に励みたいと思います。

副代表 高田 洋

つくばシニアアンサンブル

取手市民会館でのシニアアンサンブル全国大会は、私にとって実際に50年ぶりの音楽発表会でした。当日は朝早くから目が覚めてしまい、年甲斐もなく緊張しておりました。私はキーボード担当でしたので、電源の位置や適正な音量など不安材料が多くある中、牧野先生や先輩メンバーの皆様の手助けを頂き何とか午前中のリハーサルを済ませることができ、少し気持ちが落ち着きました。